

平成19年11月26日

各 位

会 社 名 シンワオックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐藤 勝 弘
(コード番号 2654 大証第二部)
問合せ先 取締役経営企画室室長 松浦 公司
(TEL. 06-6683-3101)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年5月23日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 中間期 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位: 百万円, %)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	16,140	25	△17	△33	△1円21銭
今 回 修 正 予 想 (B)	14,506	△524	△632	△769	△27円30銭
増 減 額 (B-A)	△1,634	△549	△615	△736	
増 減 率 (%)	△10.1%	△2196.0%	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成18年9月中間期)	9,804	△379	△464	△470	△48円70銭

(2) 通期 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位: 百万円, %)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	32,985	530	450	385	△13円79銭
今 回 修 正 予 想 (B)	28,072	△336	△523	△706	△25円07銭
増 減 額 (B-A)	△4,913	△866	△973	△1,091	
増 減 率 (%)	△14.9%	△163.4%	△216.2%	△283.4%	
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	25,802	△783	△1,028	△1,658	△90円42銭

2. 個別業績予想の修正

(1) 中間期 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位：百万円，%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	15,022	21	△31	△45	△1円64銭
今回修正予想 (B)	13,581	△458	△576	△642	△22円79銭
増減額 (B-A)	△1,441	△479	△545	△597	
増減率 (%)	△9.6%	△2281.0%	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成18年9月中間期)	9,797	△376	△460	△648	△67円23銭

(2) 通期 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円，%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	30,694	470	370	311	△11円57銭
今回修正予想 (B)	26,249	△344	△534	△645	△22円89銭
増減額 (B-A)	△4,445	△814	△904	△956	
増減率 (%)	△14.5%	△173.2%	△244.3%	△307.4%	
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	24,312	△714	△903	△1,763	△96円13銭

3. 修正の理由

(1) 連結業績

卸売事業におきましては、国産牛肉(売上高 前年同期比2.5%増)、牛内臓肉(売上高 前年同期比99.6%増)等の高利益商材の販売を強化したことにより、粗利益率が改善(前年同期比0.9ポイント改善)されました。しかしながら、販売政策を変更し、高い利益率を見込める商材に絞り込み販売を推し進める過程においては、売上高、粗利益高ともに規模の拡大には寄与せず、当初の予想水準には至りませんでした。

外食事業におきましては、不採算店舗の収益改善および撤退(3店舗の退店、5店舗の転貸)を推し進めたことにより営業損失を吸収したほか、販売促進費をはじめとする販管費圧縮(前年同期比2.3ポイント改善)への取組みが功を奏し、営業利益率を改善(前年同期比0.5ポイント改善)いたしました。特に当社グループの主力業態である「地鶏ごちそう処 とりひめ」におきましては、大幅な改善(前年同期比1.7ポイント改善)がなされました。しかしながら、外食業界における競争の激化が進む中、既存店の業績において前年実績を下回るなど厳しい状況が続きました。

ホテル事業におきましては、認知度の上昇とともに宿泊の稼働率が堅調に推移しており、安定的な売上を確保するに至っております。また、オリジナリティを發揮させたイベントの実施等独自スタイルを訴求し続けることで、競合との差別化を図り固定客を増大させつつあります。しかしながら、収益性の高いプライダル部門において、より確実な収益確保を行うためのアライアンスを検討いたしました。実現に至らず婚礼の獲得に苦戦を強いられました。

上記のとおり、当社グループは、事業再編を推し進めており、中でも管理部門におけるシステム関連業務の統合や業務の効率化による販管費の圧縮等成果が見込めたものの、当中間期において、全般的な

収益改善が図れなかったため、前回発表の予想を下回る見込みとなりました。

また、当期純利益におきましては、特別損失として堂島ホテルおよび不採算店舗の固定資産を対象に減損損失 214 百万円、不採算店舗等による閉鎖損失および固定資産除却損として 78 百万円、子会社整理損として 46 百万円の合計 339 百万を計上しております。

以上により、通期における連結の業績予想数値に関しまして、売上高を 28,072 百万円、営業利益△336 百万円、経常利益を△523 百万円、当期純利益を△706 百万円に修正しております。

(2) 個別業績

主に連結業績予想と同一の要因によるもの。

※ 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上